

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先)川崎市長

郵便番号 210-0801
 住 所 川崎市川崎区鈴木町1番2号
 氏 名 味の素ファインテクノ株式会社
 代表取締役社長 櫻井孝男 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素ファインテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	電子材料、機能材料の開発、製造、販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,701	kl
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	環境安全グループ
		所在地	川崎市川崎区鈴木町1番2号
		電話番号	044-221-2524
		FAX番号	044-221-2529
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ～ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の環境への配慮についてはホームページにて公表しています。 http://www.aft-website.com/about/eco

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

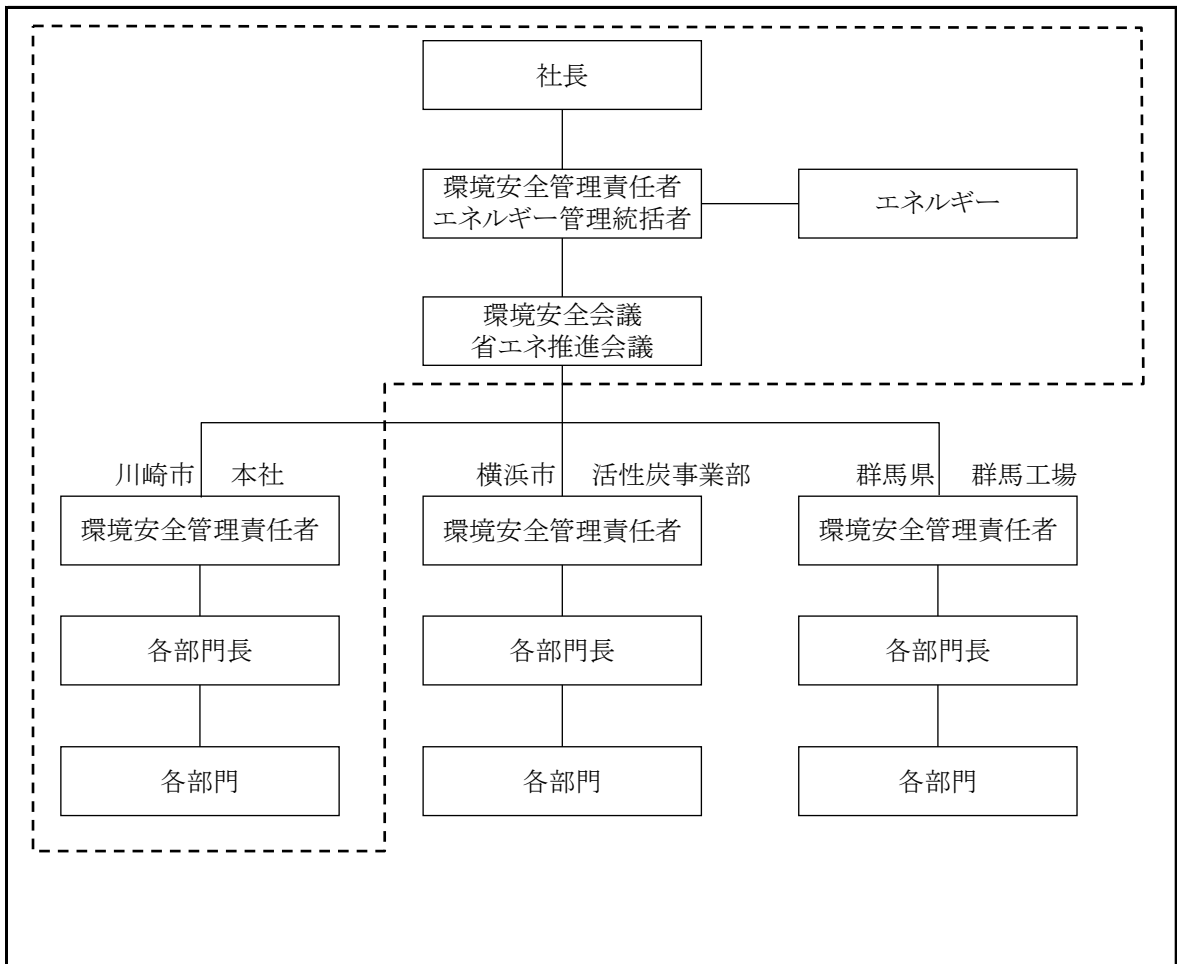
1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

■基本理念
 味の素ファインテクノ株式会社は、市場ニーズにマッチした高品質な電子材料、機能材料および活性炭分野の製品を開発、生産し、サービスと共に提供することにより、人々の明日のより良い暮らしに貢献します。これを実現するため、順法を基盤として労働災害・事故の防止、快適な職場環境づくりを進めるとともに、技術力・開発力を活用して生物多様性の保全と持続可能な社会への実現に向け積極的に取り組みます。また、味の素グループが創業以来展開してきた、事業を通じた社会的課題解決への貢献による社会・地域と共有する価値創造、すなわちASV (Ajinomoto Group Shared Value) を実現します。

■品質環境安全方針

1. 品質要求 私たちは、お客様にご満足頂ける安全、高品質な製品とサービスを提供します。
2. 信頼に応える 私たちは、適切な情報を提供することでお客さまや利害関係者の信頼にお応えします。
3. 人と地球に貢献できる商品の開発 私たちは、お客様にとって環境負荷やリスクの少ない製品、プロセスの提供を推進し、人と地球の環境や安全に貢献します。
4. 順守義務 私たちは、関係法令、お客さまや利害関係者からの要求事項を順守し、これらの変化に対して的確に対応します。
5. 事故、災害の予防 私たちは、事故、災害を未然に防止し、無事故・無災害を継続します。
6. 環境負荷とリスクの低減 私たちは、低炭素型社会と資源循環型社会の実現のため資源を有効利用し、省エネルギー、省資源および廃棄物の削減に努めます。また、取り扱う化学物質の環境と労働安全衛生に与える影響を認識し、環境汚染を防止するとともにリスクを低減します。
7. マネジメントシステム 私たちは、トップマネジメントのリーダーシップのもと、品質・環境・労働安全衛生の目標を定め、マネジメントシステムを効果的に運用して継続的改善に取り組みます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等(第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成27年度	目標年度	平成30年度
基準排出量	(実) 2,610 (調) 2,610 t-CO ₂	目標排出量	(実) 2,689 (調) 2,689 t-CO ₂
削減率	(実) -3.0 (調) -3.0 %	削減量	(実) -79 (調) -79 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産量	単 位	t-CO ₂ /ton
基準年度の値	5.590	目標年度の値	5.262
削減率	5.9 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

省エネ法特定建築物に該当する建築物を新設、2016年2月から使用開始した。また、2016年度に冷凍冷蔵倉庫の新設、その後試験研究設備の増強、工場再編が計画されているため、電力需要は年々増加する見込みである。2016年のエネルギーは特定建築物の使用量を加味した値とし、以降エネルギー使用量を抑える値とした。生産においては、少量多品種化が進み生産量は厳しい状況にあるが、新製品、新規事業の生産が見込まれるため、原単位は改善する目標とした。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標(全社目標)

川崎での増産分について目標に加味しているが、群馬工場との生産の振り分けが不透明であり、川崎の増産分を群馬工場に振り分けることがある。その場合、川崎の原単位が悪化するが、群馬工場で改善し、1%減を目標とする。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<p>①空調設備更新検討 工場空調設備のチリングユニット、循環ポンプを高効率のものにできるか、温湿度をきめ細かく管理できるよう監視システムを検討する。</p> <p>②コンプレッサー最適化 プラントエアーを供給しているコンプレッサーについて、吐出圧や流量、ラインの見直しによる最適化を行う。</p> <p>③フロン機器更新 特定フロン使用機器について、順次更新していく。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

利用の予定はない。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

(This area is currently blank for reporting completed countermeasures.)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- ①事務用品などエコ商品購入を推進する。
- ②廃棄物の分別、減量を推進する。
- ③省エネキャンペーンを実施する。
- ④従業員に環境教育を実施する。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	2,610	t-CO ₂
(調)	2,610	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位(第1号、第2号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
味の素ファインテック株式会社	川崎市川崎区鈴木町1番2号	1639	その他の有機化学工業製品製造業	2,610 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位(第4号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t以上(二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t未満(二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の数

事業所数	
------	--